

非正規の職員・従業員がその雇用形態について主な理由

2013年1月調査から新たに「非正規雇用について理由」を把握しており、非正規雇用の増加の背景等に関する分析に当たり有用なデータを得ることが可能となりました。

今回は、その結果から、非正規雇用について主な理由の状況を男女別、年齢階級別に見てみました。

男性では「正規の職員・従業員の仕事がないから」の占める割合が最も高い

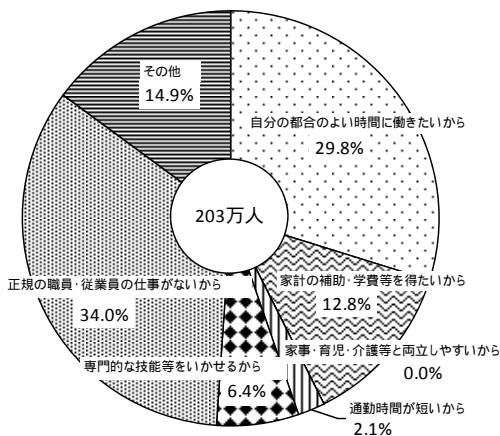
男性では「正規の職員・従業員の仕事がないから」の占める割合が31.1%と最も高く、次いで「自分の都合のよい時間に働きたいから」が21.9%となっています。特に35～54歳では「正規の職員・従業員の仕事がないから」の占める割合が49.1%と半数近くを占めています。また、15～34歳では「正規の職員・従業員の仕事がないから」の占める割合が34.0%と最も高く、次いで「自分の都合のよい時間に働きたいから」が29.8%となっています。

55歳～64歳では15～34歳及び35歳～54歳と同様に、「正規の職員・従業員の仕事がないから」の占める割合が27.1%と最も高いものの、65歳以上では「自分の都合のよい時間に働きたいから」の占める割合が29.2%と最も高くなっています。

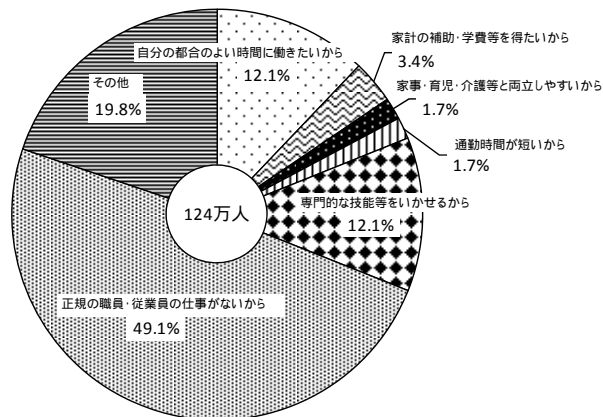
表1 男性の非正規の職員・従業員がその雇用形態について主な理由別人員の内訳

	総数	自分の都合のよい時間に働きたいから	家計の補助・学費等を得たいから	家事・育児・介護等と両立しやすいから	通勤時間が短いから	専門的な技能等をいかせるから	正規の職員・従業員の仕事がないから	その他
実数	600	120	66	3	14	67	171	108
割合	100.0	21.9	12.0	0.5	2.6	12.2	31.1	19.7

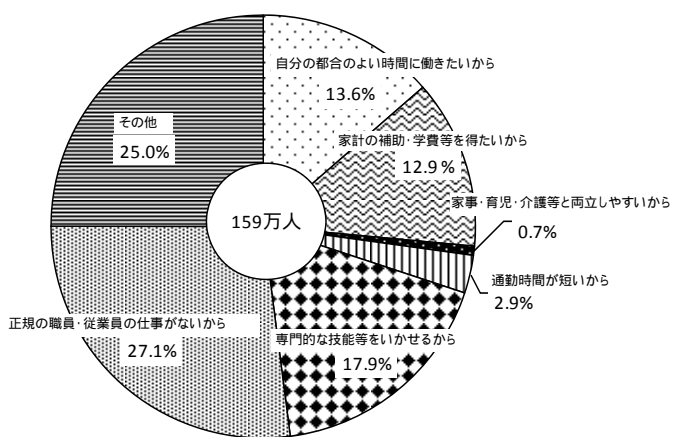
男（15～34歳）



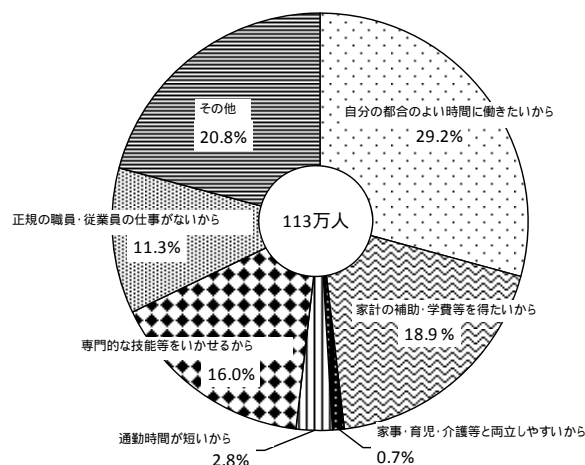
男（35～54歳）



男（55～64歳）



男（65歳以上）



女性では「家計の補助・学費等を得たいから」の占める割合が最も高い

女性では「家計の補助・学費等を得たいから」の占める割合が27.0%と最も高く、次いで「自分の都合のよい時間に働きたいから」が24.8%となっており、この2つの理由で51.8%と半数以上を占めています。

15～34歳では「自分の都合のよい時間に働きたいから」の占める割合が28.2%と最も高く、次いで「正規の職員・従業員の仕事がないから」が21.9%となっています。また、35～54歳では「家計の補助・学費等を得たいから」の占める割合が32.5%と最も高く、次いで「自分の都合のよい時間に働きたいから」が21.0%、「家事・育児・介護等と両立しやすいから」が19.1%となっており、この3つの理由で72.6%となっています。

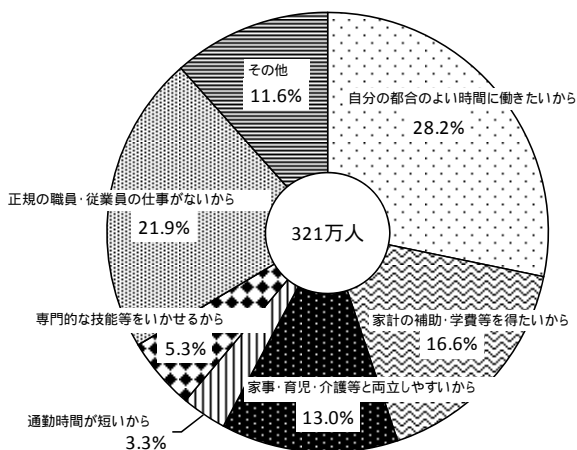
55歳～64歳では「自分の都合のよい時間に働きたいから」及び「家計の補助・学費等を得たいから」の占める割合が28.0%と最も高く、65歳以上では「自分の都合のよい時間に働きたいから」の占める割合が31.5%と最も高くなっています。

表2 女性の非正規の職員・従業員がその雇用形態について主な理由別人員の内訳

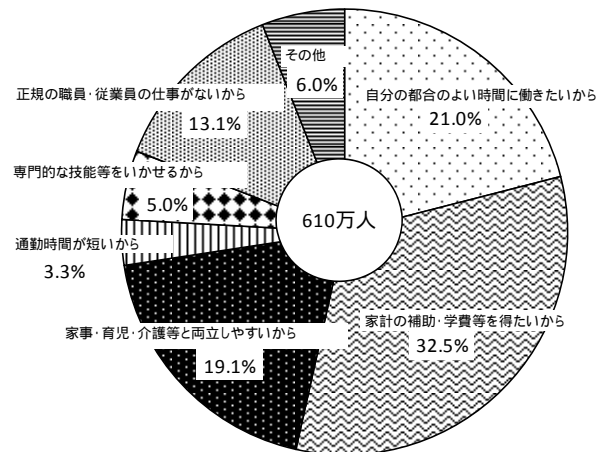
(万人, %)

	総数	自分の都合のよい時間に働きたいから	家計の補助・学費等を得たいから	家事・育児・介護等と両立しやすいから	通勤時間が短いから	専門的な技能等をいかせるから	正規の職員・従業員の仕事がないから	その他
実数	1270	298	324	177	51	72	177	101
割合	100.0	24.8	27.0	14.8	4.3	6.0	14.8	8.4

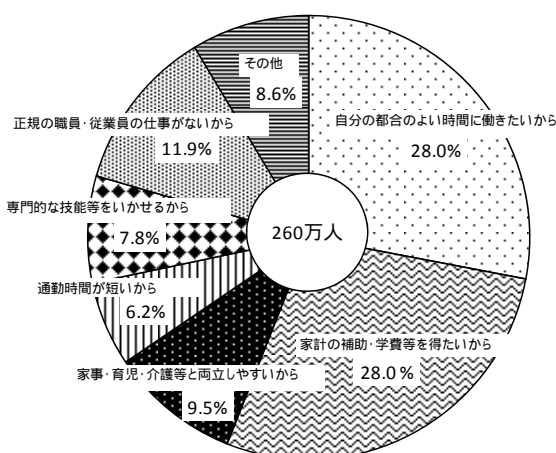
女(15～34歳)



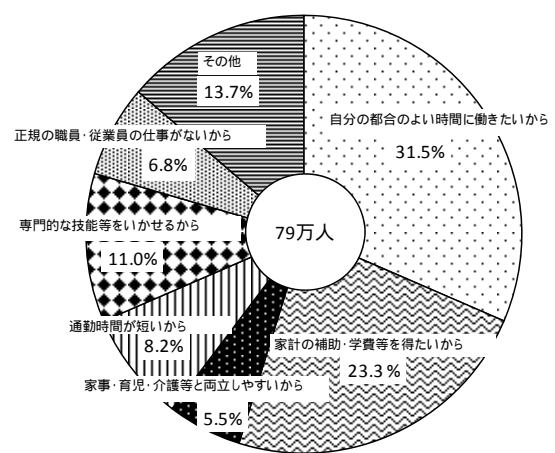
女(35～54歳)



女(55～64歳)



女(65歳以上)



(2013年5月14日掲載)